# しんえつリポート

136期報告書
2012年4月1日～2013年3月31日

ShinEtsu

## シンエツのハイライト

| 売上高 | 営業利益 |
|---|---|
| 1兆254億円 | 1,570億円 |
| −2.1% 前期比 223億円減 | +5.0% 前期比 74億円増 |

| 経常利益 | 純利益 |
|---|---|
| 1,702億円 | 1,057億円 |
| +3.0% 前期比 50億円増 | +5.0% 前期比 51億円増 |

**自己資本比率**

82.0%

純資産1兆6,232億円
総資産1兆9,209億円
（ご参考：自己資本1兆5,761億円）

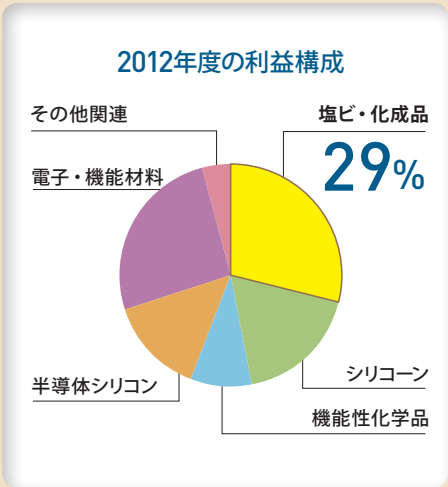
**海外売上高比率**

67.4%

**年間配当金**

100円

## 当期の注目ポイント




### 収益を力強くけん引する米国シンテック社

当期の営業利益の構成を見てみますと、米国シンテック社が最高益を更新したことにより、「塩ビ・化成品事業」が全体の利益の29%を占め、信越化学の増益に大きく貢献しました。

## しんえつニュースクリップ

### 「トムソン・ロイター Top100 グローバル・イノベーター・アワード」を2年連続受賞

世界最大級の特許情報機関であるトムソン・ロイター社が選出する、「世界で最も革新的な企業・研究機関100社」に当社が2年連続で選ばれました。受賞した100社のうち、化学工業分野の企業は、当社を含め8社（右表）です。この選定は、同社が保有する知的財産・特許データをもとに、評価基準となる各企業の「特許数」「成功率」「特許ポートフォリオの世界的な広がり」「引用における特許の影響力」を分析し、表彰する企業を選出しています。

※「トムソン・ロイター Top100 グローバル・イノベーター・アワード」の詳細に関しては、トムソン・ロイター社のホームページにも掲載されております。 http://ip-science.thomsonreuters.jp/ips/top100/

化学工業分野の受賞企業

| 信越化学工業 | 日本 |
|---|---|
| 日東電工 | 日本 |
| Arkema | 仏国 |
| 3M | 米国 |
| Chevron | 米国 |
| Dow Chemical | 米国 |
| DuPont | 米国 |
| Solvay | 米国 |

## 株主・投資家の皆さまへ

# 国際展開と新製品展開により、成長を目指してまいります。

**株主、投資家の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。**

代表取締役会長
金川千尋

代表取締役社長
森俊三

### 当期の概況

当期の世界経済は、米国では緩やかな回復が続きましたが、欧州は依然として不透明な情勢が続き、中国をはじめとした新興国では成長が鈍化するなど、全般的に減速傾向にありました。日本経済は、第4四半期に入り明るい兆しが見られましたが、総じて厳しい状況が続きました。当社グループは、かねてより景気の動向に左右されにくい強固な事業基盤の構築に注力しております。当期も世界中の顧客に積極的な販売を行うとともに、海外の新工場の早期戦力化や原材料の安定確保に努め、さらに品質や技術の向上と新規製品の開発にも鋭意取り組むなど、営業、製造、研究開発が三位一体となり、収益を伸ばし会社の価値を高めることに取り組んでまいりました。

この結果、連結売上高1兆254億9百万円（対前期比2.1%減）、連結営業利益1,570億4千3百万円（同5.0%増）、連結経常利益1,702億7百万円（同3.0%増）、連結当期純利益1,057億1千4百万円（同5.0%増）となりました。

### 主要事業の動向

塩ビ・化成品事業では、世界最大の塩ビ樹脂メーカーである米国子会社のシンテック社が、経常利益を倍増させ、当社グループの増益に大きく貢献いたしました。これは、米国の住宅市場の回復が依然として低水準にとどまるなかで、同社が世界中の需要家への拡販を行い、高水準の生産と出荷を実現した結果です。

半導体シリコン事業では、スマートフォンやタブレットPC用などの先端デバイス向けが堅調に推移しましたが、パソコンや薄型テレビなどの需要が低調に推移した結果、厳しい状況が続きました。

シリコーン事業では、国内の化粧品向けなどが順調に推移しましたが、電子機器の用途が振るわず、さらにアジア地域における汎用品の価格低迷などの影響を受けました。

電子・機能材料事業では、ハイブリッド車など自動車向けの希土類磁石をはじめ、フォトレジスト製品やLED用パッケージ材料が順調に推移しました。さらに、2012年に中国で稼働を始めた光ファイバー用プリフォームの新工場も出荷を伸ばすことができました。

### 持続的な成長力の確保
### ～「既存事業の強化」と「新規事業の育成」～

既存事業では、市場環境の急激な変化、自然災害、カントリーリスクなど、事業推進の妨げとなる不測の事態に備え、生産拠点の分散などを推進しています。また、成長が見込める事業への積極的な投資を行い、生産能力の増強を進めています。シンテック社では2011年夏に塩ビ樹脂の原料からの一貫生産工場が完成し、新工場も含め全ての工場でフル稼働を継続した結果、当期の業績に大きく寄与しました。

当社グループでは投資先として米国を重視しており、現在、建材用塗料用途に需要の伸びが期待されるヒドロキシエチルセルロース（HEC）の新工場の建設を進めています。ドイツの既存工場に加え米国にも拠点を持つことで、生産拠点の分散化を図り、販売力をさらに強化いたします。

今後の経済成長により需要の伸びが見込まれるアジア市場では、中国とベトナムで進めていた希土類磁石の原料工場が完成し、原料の安定調達をさらに進めることができました。また、ベトナムではLED用パッケージ材料の工場を建設し、2013年度に操業を開始いたします。当社グループは、常に将来の成長を見据えて、積極的な設備投資を行ってまいります。

新規事業分野では、「エネルギー」や「ヘルスケア」などの新しい領域での研究開発も進めています。エネルギー分野では、テーマのひとつとして、高容量に対応できるリチウムイオン電池材料の開発を行っています。ヘルスケア分野では、創薬ベンチャーのナノキャリア社に出資し、薬を患部に効率的に到達させる材料を共同研究しています。既存事業のさらなる強化と新規事業の育成により、成長し続ける会社を目指してまいります。

### 株主還元の方針

当社グループは外部環境の急激な変化に対応できる経営を進めています。近年では、米国発の金融危機や東日本大震災などが当社の事業に大きな影響を与えましたが、経営努力により、これらの危機を克服し、収益を確保し安定配当を継続することができました。今後も長期的な観点で事業収益の拡大と企業体質のさらなる強化に注力し、株主の皆さまに適正に還元する配当を行ってまいります。

### 安全確保の最優先と公正な経営の推進

当社グループは、遵法に徹した公正な企業活動を行い、安全を常に最優先することを経営目標に掲げ事業活動を進めています。そのために、厳格な内部統制システムの運用とともに、社外取締役および社外監査役が独立した立場で経営の監督を行うなど、経営の健全性と透明性をさらに高めることに努めています。

当社グループは、これからも収益拡大とともに、社会から信頼される企業活動を通じて企業価値の最大化を追求し、皆さまのご期待にお応えしてまいります。

株主の皆さまには、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申しあげます。

2013年6月
代表取締役会長　金川千尋
代表取締役社長　森　俊三

# 事業概況

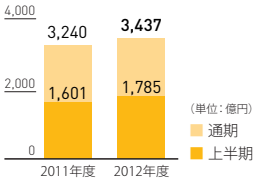
## 塩ビ・化成品

売上高比率 33.5%

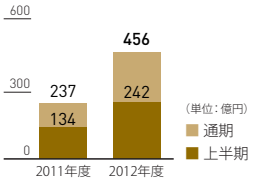
- 米国シンテック社が世界中の顧客への拡販で高水準の出荷を維持し、業績を大きく伸ばしました。
- オランダのシンエツPVC社も堅調な出荷を継続しました。
- 国内塩ビは、需要の低迷と原料価格の上昇で厳しい状況が続きました。

主要製品：塩化ビニル樹脂、か性ソーダ、メタノール、クロロメタン

売上高 +6.1%




営業利益 +92.6%



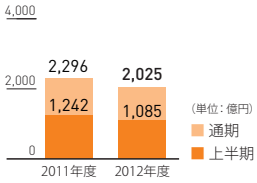

## 半導体シリコン

売上高比率 19.7%

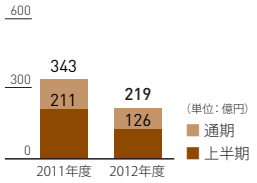
- スマートフォンやタブレットPC用など一部の先端デバイス需要は好調でしたが、ウエハー使用量の多いパソコンや薄型テレビなど民生機器向けは需要低迷の影響を受けました。

主要製品：半導体シリコン

売上高 −11.8%




営業利益 −36.1%



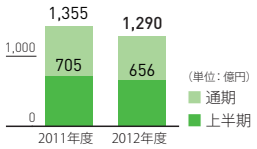

## シリコーン

売上高比率 12.6%

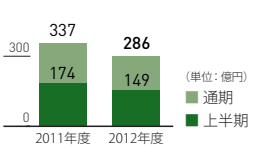
- 国内は化粧品向けが期を通して順調に推移しました。自動車向けは期前半は堅調に推移しましたが、電子機器向けは総じて低調でした。
- 海外は、中国などアジア地域での市況低迷の影響を受けました。

主要製品：シリコーン

売上高 −4.7%




営業利益 −15.0%



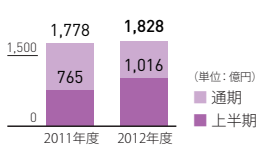

## 電子・機能材料

売上高比率 17.8%

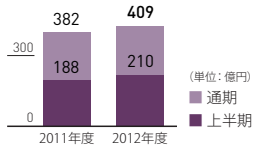
- 希土類磁石は、自動車向けは堅調だったものの、ハードディスクドライブやエアコン向けは低調でした。
- フォトレジストは、半導体デバイスの微細化の進展もあり順調に推移しました。
- LED用パッケージ材料の需要は堅調でした。
- 光ファイバー用プリフォームの需要は堅調で、中国の新工場の稼働も寄与しました。

主要製品：希土類磁石（電子産業用・一般用）、半導体用封止材、LED用パッケージ材料、フォトレジスト、マスクブランクス、合成石英製品、液状フッ素エラストマー、ペリクル

売上高 +2.8%




営業利益 +7.1%



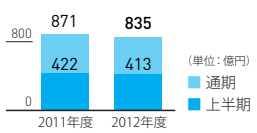

## 機能性化学品

売上高比率 8.2%

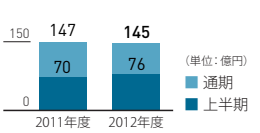
- 国内セルロース誘導体は、建材用や医薬品用が順調に推移しました。
- ドイツのSEタイローズ社は、塗料用を中心に堅調に推移しました。
- 豪州のシムコア社は、金属珪素の市況低迷の影響を受けました。

主要製品：セルロース誘導体、金属珪素、ポバール、合成性フェロモン

売上高 −4.1%




営業利益 −1.6%



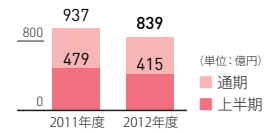

## その他関連

売上高比率 8.2%

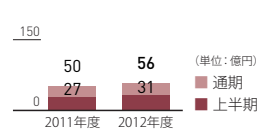
- 信越ポリマー社の自動車用キーパッドは順調に推移しましたが、半導体ウエハー関連容器は半導体デバイスの需要低迷の影響を受けました。

主要製品：樹脂加工製品、技術・プラント輸出、商品の輸出入、エンジニアリング

売上高 −10.4%




営業利益 +11.3%



# 特集　シンエツの米国での事業展開

信越グループは、豊富なエネルギー資源と巨大な市場を持ち安定した国情の米国を、投資先としても重視しています。グループの国際競争力をご理解いただく上で欠かせない米国における事業展開について特集します。

シンテック社　●グループ増益の立役者

## 大幅増益で過去最高益を更新

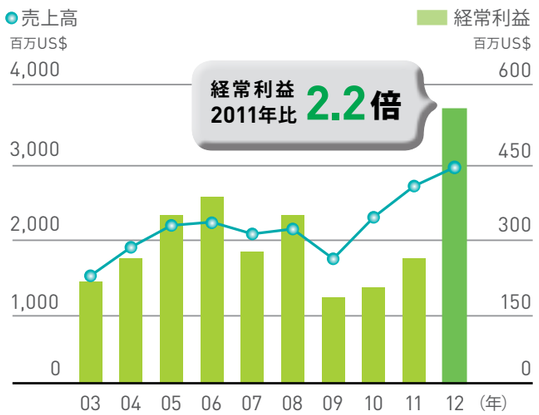
塩化ビニル樹脂（塩ビ）事業の中核を担う米国シンテック社は、前期に比べて2.2倍となる経常利益551百万ドル（440億円）を上げ、過去最高益を達成しました。ルイジアナ州で実施した総投資額2,500億円に上る塩ビの原料からの一貫生産工場が高稼働を継続し、増益に大きく貢献しました。

シンテック社は2005年にこの大型投資を決断し、直ちに建設工事に着手しました。当時、米国では天然ガスの高騰が続いており、それが恒久化すると考え、多くの会社が米国での事業を縮小し、中東などへ投資を行いました。こうした中でも同社は「米国にはエネルギー問題を解決する力がある」と確信し、工場の建設を進めました。ルイジアナ州の新工場が2008年から順次稼働を開始し、2011年夏に全ての工事が完了しました。その結果、同社の塩ビの総生産能力は年間264万トンとなりました。

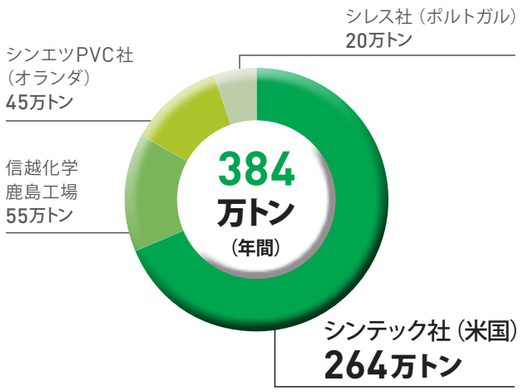
一方、米国ではシェールガスを採掘する革新技術が確立され、2009年から天然ガスの価格が下がり始め、再び国際競争力を取り戻しました※。そのため、石油化学の新たな投資先として米国が注目を集めるようになりました。シェールガス革命とも称されるブームが起きる前に踏み切ったこの投資が、同社の最高益に、そして信越化学の増益にも大きく貢献しました。

※ 2012年の天然ガス価格は、シンテック社が大型投資を決断した2005年の約3分の1になりました。

### シンテック社の10年間の売上高と経常利益



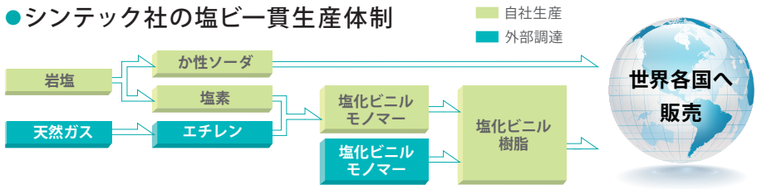

### 信越グループの塩ビの生産能力は世界最大




### 原料からの一貫生産を強化

シンテック社の塩ビの原料からの一貫生産工場が2011年夏に完成し、原料の安定調達体制が一層強化されました。米国では塩ビの出発原料の岩塩と天然ガスが豊富に存在しています。これら国際的に価格競争力のある原料を使うことにより、シンテック社は自社で一貫生産できる体制を生かし、世界の塩ビ需要の拡大に応えていきます。

●シンテック社の塩ビ一貫生産体制



SEタイローズ社　●安定供給体制の強化

## 塗料用のセルロース工場を新設

グループ会社のSEタイローズ社は、米国ルイジアナ州に年間生産能力9,000トンのヒドロキシエチルセルロース（HEC）の製造工場の建設を進めています。HECは主に建材用の水性塗料に使われており、世界中で堅調な需要の伸びが期待されています。既存のドイツの工場に加えて新工場が完成すれば、HECの年間生産能力はグループ全体で27,000トンに増強されます。また、ドイツと米国に生産拠点を持つことで、安定供給体制がさらに強化されます。

HECの主な用途である水性塗料は、有機溶剤を含まないため、環境や健康に配慮された塗料として注目されています

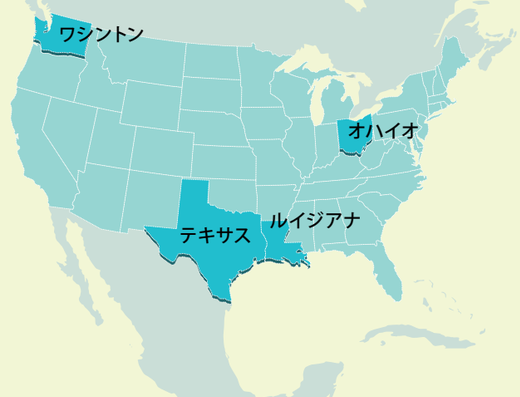
S.E.H.アメリカ社　●事業を通じ地域社会に貢献

## 功績が認められ、地域に名を刻む

S.E.H.アメリカ社（ワシントン州バンクーバー市）は当社グループの300mmウエハーの生産拠点のひとつとして、高品質な製品を世界市場に送り出しています。同社の、長年にわたる地域社会への功績がバンクーバー市より認められ、当社会長の金川の名前にちなみ、2008年に同社の工場に直結する2本の道路が「Kanagawa Avenue」「S.E.H.-Kanagawa Way」と命名されました。今後も地域社会とのつながりを大切にし、事業を通じて地域に貢献するさまざまな活動を行っていきます。

バンクーバー市から贈られた賞状とS.E.H.アメリカ社の工場入口の標識

### 【米国の生産拠点】




**塩ビ・化成品事業**

- ●シンテック社 フリーポート工場（テキサス州）
- ●シンテック社 アディス工場（ルイジアナ州）
- ●シンテック社 プラクマン工場（ルイジアナ州）

**シリコーン事業**

- ●シンエツ シリコーンズ オブ アメリカ社 アクロン工場（オハイオ州）
- ●シンエツ シリコーンズ オブ アメリカ社 フリーポート工場（テキサス州）
- ●シンコア シリコーンズ社（オハイオ州）

**機能性化学品事業**

- ●SEタイローズ社※（ルイジアナ州）　※2014年完成予定

**半導体シリコン事業**

- ●S.E.H.アメリカ社（ワシントン州）

# 会社データ

## 会社概要（2013年3月31日現在）

商　　号：信越化学工業株式会社
設　　立：1926年9月16日
資 本 金：119,419,688,785円
本　　社：〒100-0004
東京都千代田区大手町
二丁目6番1号
電　　話：03（3246）5091
U R L：http://www.shinetsu.co.jp/
従業員数：17,712名（連結）

## 役　　員（2013年6月27日現在）

代表取締役会長　金川　千尋
代表取締役社長　森　俊三
代表取締役副社長　秋谷　文男
斉藤　恭彦
専務取締役　石原　俊信
常務取締役　幅田　紀一
髙杉　晃司
轟　正彦
秋本　俊哉
荒井　文男
松井　幸博

取締役　フランク・ピーター・ポポフ*1
金子　昌資*1
宮﨑　毅*1
福井　俊彦*1
小宮山　宏*1
宮島　正紀
笠原　俊幸
小根澤　英徳
中村　健
岡本　博明
上野　進
丸山　和政

常勤監査役　岡田　理
監査役　渡瀬　昌彦
福井　琢*2
小坂　義人*2
永野　紀吉*2

＊1 社外取締役
＊2 社外監査役

## 株式の状況（2013年3月31日現在）

発行する株式の総数：1,720,000,000 株
発行済株式総数：　432,106,693 株
（注）自己株式7,190,226株が含まれております。
株主の総数：　58,910 名

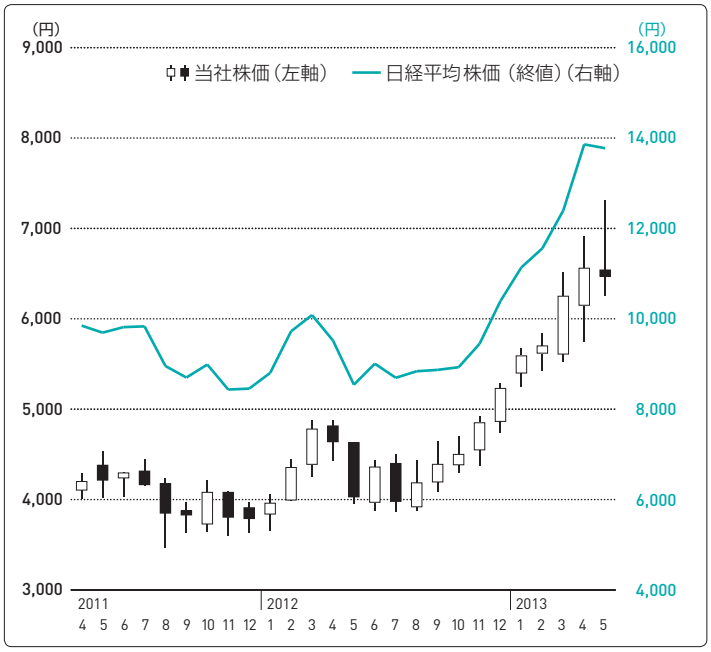
### 大株主

（千株未満は切捨表示）

| 株主名 | 持株数（千株） | 出資比率（%） |
|---|---|---|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 37,667 | 8.9 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 29,538 | 7.0 |
| 日本生命保険相互会社 | 24,370 | 5.7 |
| 株式会社八十二銀行 | 11,790 | 2.8 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4） | 11,330 | 2.7 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 10,687 | 2.5 |
| SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS | 8,975 | 2.1 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225 | 6,773 | 1.6 |
| ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント | 5,889 | 1.4 |
| メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション | 5,474 | 1.3 |

（注）当社は、自己株式7,190,226 株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。また、出資比率は自己株式を控除して計算しております。

### 株価の推移




## 株主メモ

事　業　年　度：4月1日～翌年3月31日
期末配当受領株主確定日：3月31日
中間配当受領株主確定日：9月30日
定 時 株 主 総 会：毎年6月
公 告 掲 載 方 法：電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。
（http://www.shinetsu.co.jp/）
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単 元 株 式 数：100株
上 場 証 券 取 引 所：東京・大阪・名古屋
※ 大阪証券取引所は、2013年7月16日付をもって、東京証券取引所と市場の統合を行う予定のため、同日以降、当社の上場証券取引所は東京証券取引所と名古屋証券取引所となります。
株主名簿管理人
特別口座の管理機関：三菱UFJ 信託銀行株式会社
同 連 絡 先：〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
電話 0120-232-711（通話料無料）

## 株式に関するお手続きについて

| お手続き、ご照会の内容 | お問い合わせ先 |
|---|---|
| **証券会社等の口座に記録された株式** | |
| 郵送物などの発送と返戻に関するご照会 | 三菱UFJ信託銀行 証券代行部<br>電話 0120-232-711<br>（通話料無料） |
| 払渡し期間経過後の配当金に関するご照会 | |
| 株式事務に関する一般的なお問い合わせ | |
| 上記以外のお手続き、ご照会など | 口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください |
| **特別口座に記録された株式** | |
| 特別口座から一般口座への振替請求 | 三菱UFJ信託銀行 証券代行部<br>電話 0120-232-711<br>（通話料無料） |
| 単元未満株式の買取・買増請求 | |
| 住所、氏名などのご変更 | |
| 特別口座の残高照会 | |
| 配当金の受領方法の指定 | |
| 郵送物などの発送と返戻に関するご照会 | |
| 払渡し期間経過後の配当金に関するご照会 | |
| 株式事務に関する一般的なお問い合わせ | |



VEGETABLE OIL INK